

「赤磐市文化振興ビジョン（改訂版）」（素案）に関するパブリックコメント（市民意見募集）の結果

意見募集期間 令和8年1月19日から令和8年2月16日まで

意見募集結果 19件（7名）

意見番号	該当部分・項目	いただいたご意見の内容	市の考え方
1	p.3 第2章 本市の文化振興に関する現状 2 文化芸術環境の整備	本市には、コンサートホールがないため、質の高い音楽にふれることができにくいし、音楽活動を発展させることも難しい。現在のホールでは、音が舞台の上やまわりに散ってしまい、響きにくく、音が客席のほうにとんでいきません。席数も少ないです。500人程入るコンサートホールを作ってください。	既存の施設の整備や見直しを含め、地域の市民文化活動を支える施設の整備・充実に努めます。 なお、新たな施設整備等に当たっては、他の公共施設との複合化や効率的な管理運営方法などを検討し、財政負担の軽減を図るものとします。
2	p.3 第2章 本市の文化振興に関する現状 2 文化芸術環境の整備	音楽文化ホール等がない中、今ある資源（施設）の活用は重要なことだと思います。しかし、中央公民館に限って言えば、音楽ホールの要素はあまり感じられなかったのが個人的には残念でした。（実現の可否はあるかと思いますが、）当事者の意見を取り入れる動きはあったのでしょうか。	中央公民館の改修につきましては、建物の安全性確保を最優先とした耐震工事を目的として実施したため、音楽ホール機能の充実等を目的とした利用者への意見聴取は実施しておりません。
3	p.3 第2章 本市の文化	熊山地域では、公民館がなく、ほほえみとふれあいセ	間借りではなく、くまやまふれあいセンターは、公民館機能を

	<p>振興に関する現状</p> <p>2 文化芸術環境の整備</p>	<p>ンターに間借りしていますが、公民館は、町の文化の中心であり、シンボルでもあると思います。音楽活動や芸術活動・ダンスや料理他、使いやすい部屋があって、だれでも集える交流の場（広いロビー）のある公民館がほしいです。又、住民は、無料又は安価で気軽に借りれるようにしてほしいです。</p>	<p>備えた施設として、現在運営しています。</p> <p>その他のご意見については【1】と同様</p>
4	<p>p.3 第2章 本市の文化振興に関する現状</p> <p>2 文化芸術環境の整備</p> <p>「中央公民館を大規模改修し（中略）大集会室の増席等」</p> <p>p.4 第4章 本市の文化振興ビジョンの推進に向けて</p> <p>2 文化施設の整備と活用</p> <p>「既存の施設の整備や見直しを含め、地域の市民文化活動を支える施設の整備・充実」</p>	<p>既存施設の有効活用による「活動拠点」確保について</p> <p>中央公民館の改修が行われましたが、ステージの奥行きや広さが不足しており、私たちのような50名規模の吹奏楽団等は演奏会を開催することが物理的に不可能です。</p> <p>また、これまでの演奏会で、会場の収容人数の制限によって泣く泣く入場人数を規制してきた私たちにとって、改修後の中央公民館も十分な席数とは言えません。</p> <p>ステージの広さ、客席数の両方から、中央公民館は私たちの発表の場としては残念ながら使うことができません。</p> <p>赤坂健康管理センター、くまやまふれあいホール、いきいき交流センターなどについても、同様の理由により公演の場として選択できていません。</p> <p>「市民の利用満足度向上」と</p>	<p>既存施設の活用による環境改善の可能性については、今後の検討課題であると考えております。</p> <p>音響設備の充実や可動式備品の導入、体育館等の活用方法、利用料の在り方、近隣自治体施設の活用支援などにつきましては、費用対効果や公平性の観点も踏まえながら検討する必要がありますと考えています。</p> <p>また、大型楽器の保管場所や搬出入時の安全確保につきましても、施設管理上の課題として認識しております。</p> <p>学校施設や閉校施設の活用につきましても、管理体制や安全管理、用途制限等の整理が必要と考えております。</p>

		<p>いう目標に対し、実際に市内で活動している団体が「市内で発表できない（ステージに乗れない・客席が足りない）」という現状は、文化振興において重い足枷になっているのではないかと感じています。</p> <p>音楽特化の専用ホールが欲しいという話は私たちの周辺では常に話題にあがります。しかし、財政難や少子高齢化のこの時代に、ホールの新築が非常に困難であるということは理解しています。</p> <p>であれば、代わりに既存のホールや体育館等を活用できるよう、既存施設への音響板の設置、代替施設としてのふれあい公園体育館の利用料減免、または近隣地域にある音楽ホール(サエスタなど)の使用も助成対象に含めるなど、具体的な環境整備をご検討頂きたいです。</p> <p>また、50名規模の楽団の活動を維持するためには、大型楽器の保管場所が不可欠です。現在は公民館に置かせて頂いていますが、他にも楽器が必要にも関わらず保管場所の問題で購入したり借りたりすることができず、活動に支障が出始めています。</p> <p>公民館長の指示のもと、他の団体の活動に支障が出ないように注意して保管していますが、重量の大型の打楽器を階</p>	
--	--	--	--

		<p>段で移動させるなど、安全上の懸念もあります。</p> <p>小中学校の空き教室や、閉校となる小学校(軽部小など)も文化活動の拠点として活用できるようにするなど、制度の整備についても積極的にご検討頂ければ幸いです。</p>	
5	<p>p.4 第3章 本市の文化振興に関する課題 2 市民の文化活動に関すること</p>	<p>若い世代の担い手の育成、ぜひ進めていただきたいです。現在の公民館の様子は若者向きではないように思います。施設によっては、説明会等が平日日中にあたり、飲食ができなかったりと、あまり開かれた印象はありません。運営に若者の視点がほしいです。</p>	<p>若い世代が参加しやすい環境づくりは今後の地域づくりにおいて不可欠であると考えております。</p> <p>このため、説明会等の実施時間の工夫や情報発信の方法の見直し、利用ルールの在り方の検討など、可能な範囲で改善に努めてまいります。</p>
6	<p>p.4 第4章 本市の文化振興ビジョンの推進に向けて 2 文化施設の整備と活用 「既存の施設の整備や見直しを含め、地域の市民文化活動を支える施設の整備・充実に努めます。」</p>	<p>既存の施設の活用が検討されていることを承知で提案なのですが、音楽文化ホールの新設も選択肢に入れませんか。</p> <p>全国的に見ても岡山県は吹奏楽が盛んな地域です。小学生から大学生、社会人まで、活動人口(団体)が非常に多いです。しかし、大会や合同演奏会を実施するのに適した施設(ホール)は限られている上に老朽化が進んでいます(倉敷市民会館やマービーふれあいセンターがよく利用されている印象、倉敷は駐車場の懸念もあり)。また、小中規模の演奏会などに利用されていた岡山市民会館はなくなり(ハレノワは音楽向きではなく)、不便さを感じている関係者の</p>	<p>【1】と同様</p>

		<p>声を聞くことがあります。赤磐市にホールがあれば案外需要があるのでは？と感じています。よければご検討ください。</p>	
7	<p>p.4 第4章 本市の文化振興ビジョンの推進に向けて 2 文化施設の整備と活用</p>	<p>●少子化と施設の合併などでの空いた施設の活用で成功した最も象徴的な事例が、瀬戸内市の瀬戸内市立美術館です。三町合併で空いた旧牛窓町役場を改装し、美術館と図書館の複合施設にしました。美術館の入館数はH24年度に48000人近くになりました。赤磐市の人口に6000人を加えた人数の方々が入場料を払って1年間に訪れているのです。例えば、昨年行った「96歳の方のちぎり絵展」には2万人もの来館がありました。人口7000人の町にこの人数が訪れており、過去行なった展覧会のデータでは、シニアが約7割で、現代アートなどを中心に若い層も約3割来ており、町の活性化が顕著で、美術館の存在を住民の方が誇りに思っています。文字どおり地域の一体感と地域愛の醸成ができています。この成功例を参考に、赤磐市では、例えば図書館はありますので、生徒数減が顕著な山陽西小学校を山陽小学校に合併し、美術館と音楽ホール（折角、福田廉之介という世界的なバイオリニストが居ながら、その存在と実力が十分アピールでき</p>	<p>いただいたご提案は、今後の公共施設の在り方や文化振興施策を検討する際の参考とさせていただきます。</p>

		<p>ているとは思えない) の併設に改装することも検討なさってはいかがでしょうか。山陽小学校とは1キロくらいしか離れていないこともあり、山陽西小学校の生徒も、より多くの仲間と学ぶことで、お互いの刺激により切磋琢磨でよりスキルアップや人間としての成長にも繋がります。また多くの生徒との触れ合いにより、コミュニケーション力やチームワーク力もより習得できるという貢献面が多々あります。加えて経費削減にも大きく繋がります。そして何より何万という人が訪れることで、山陽団地の方々も巻き込み、特にシニアの方々のリカレント教育にも大きく貢献し、現在何かと取りあげられる負の部分、他の地域の事例でもわかりますように、文化に参加することで、大きな生きがいに変わる住民参加の団地にすることができます。また、赤磐市立川出身の土井原嵩浩氏が日本の最大の美術団体・日展で2度の特選を取るなど、郷土を代表する洋画家であり、現在、高知大学の教授ですが、この3月で退官されます。2月に開催された退官記念展は初期からの作品も出品されており回顧展といわれるもので、本当に素晴らしい内容でした。この度の旧赤坂町学区3</p>	
--	--	---	--

		<p>校の合併で、空いた例えば軽部小学校を、土井原氏の作品展示場にし、若手作家のレジデンス場として活用し、子供達も参加の情操教育の美術展示場として活用することを提案します。そうすれば旧赤坂地区に芸術の大きな核ができ新しい芸術の拠点ができます。一方、また、瀬戸内芸術祭が百万人近くの来館があり、直島や豊島の住民が一緒に取り組んでいる事に象徴されるように、これからは文化の果たす役割が地域の活性化の大きなキーワードになります。赤磐市には永瀬清子の生家の活用や多くの遺跡や史跡があり、郷土愛の高揚もあり、多くの調査、研究が始められており、シニアを中心に多くの方が興味を持っています。しかしながら過去、日本を代表するような芸術家は生まれていません。岡山県は、芸術家の出身やその舞台が、殆ど旭川より西で、東は夢二がいるだけです（夢二も15歳で故郷を後にしました）。西は、大原美術館の存在が非常に大きく、私の聞いた範囲では、倉敷地区を中心に、小学校の時点で、ほとんどの生徒が大原美術館に行っています。加えて、倉敷市立美術館は、毎年市内の小中学生から中学生など大半が参加しての「倉敷っ子美術展」を</p>	
--	--	---	--

		<p>開催し、次世代の育成に全力を挙げています。逆に東の方面では大原美術館を例にとっても殆どの生徒が行っていないと思います。また、子供の頃に親に美術館に連れていってもらった子供は、ほぼ100%、自分の子供を美術館に連れていくというデータを見たことがあります。これは逆も真なりです。実は、瀬戸内市立美術館は、歩いて5分の牛窓中学校、並びに、邑久高校の丸川先生との連携により、現在、活発な取り組みが行われており、県内屈指の情操教育がなされています。横山大観、東山魁夷、平山郁夫などの明治以降の巨匠の作品も直に鑑賞でき、子供達の眼は輝いており、この取り組みはますます発展強化されており、遅ればせながら瀬戸内市はこれから必ず日本を代表するような芸術家が誕生すると確信しています。現在は後れを取っている赤磐市では、そういう子供たちがいないのではなく、才能を持った子供たちが、その作品を見る機会が殆ど無く、その才能の開花と才能を発揮できる場がないだけなのです。その場を創り上げるのが、われわれの責任であり役目ではないでしょうか？備前市に昨年、備前市美術館ができました。24億円かかったと聞きました</p>	
--	--	--	--

		<p>た。一方瀬戸内市立美術館は、旧牛窓役場を施設改造し、合併特例債を使って、なんと1億数千万でできたと聞きました。新設するには莫大な資金が必要ですが、改造ならこの位の金額で出来るのです。赤磐市に美術館ができれば、赤磐、瀬戸内、備前の美術のトライアングル地域が成立し、この3市で現在真庭市を中心にした県北地域が行っている芸術祭（岡山県とのタイアップもあり、現在大きな反響で成果をあげています）に匹敵する1大芸術エリアができます。ぜひ、山陽小学校と山陽西小学校の合併で、旧舎を改装し、美術館と音楽ホールの併設により、子供達の情操教育がアップし、その才能の発揮場所の提供と、今まで団塊の世代を中心にした日本の経済成長を支えてきた特に山陽団地の人々を始めとする多くのシニアの方々をリカレント教育によりもう一度眼が輝くような場の提供を提案する次第であります。現在岡山県の地域を文化面で総覧すると、日本の文化の象徴である倉敷市を筆頭に、小野竹喬の笠岡市立美術館、平櫛田中の井原市立美術館、雪舟と文化勲章受章書家・高木聖鶴を顕彰する総社吉備路文化館、児島虎次郎の収集の成羽美術館</p>	
--	--	---	--

		<p>と市立歴史美術館を要する高梁市、横山大観や平山郁夫等を始め何千点を収集している新見美術館、ベネッセコーポレーションが主宰する「瀬戸内国際芸術祭」に玉野市が加わり、岡山市は「岡山芸術交流」で取り組みが年を重ねており、数年前から真庭市が主導している「森の芸術祭」もいよいよ活況を呈してきました、そして全国からの来館がある「奈義町現代美術館」、そして「備前市美術館」と「瀬戸内市立美術館」と各地域の方が、文化の必要性に早くから気づき取り組みを加速してきました。岡山県の東半分（旭川を境に東側）には美術館がゼロでしたが、この15年で、「瀬戸内市立美術館」「備前市美術館」と南から次々できてきました。岡山県の地図を俯瞰すると、残された大きな地域が津山市、美作市と赤磐市だけなのです。岡山市の中心部に最も近いのが赤磐市で、来訪誘導に最も優位なのです。赤磐市庁舎から三野迄12キロあり、15分程度で行けます。前記の瀬戸内市立美術館は最寄りの邑久駅から10キロも離れており、岡山から直通のバスもなく、最も近い邑久駅からの便も少なく県内で最もアクセスの悪い美術館といわれている美術館であるのにも</p>	
--	--	---	--

		<p>かかわらず前記の様な来館数なのです。国分寺跡、両宮山古墳の地域と、山陽西小学校は近く、また、見下ろせば道の駅を中心にした集客エリアができつつあり、また、現在のいずみを中心にした一大商業エリアもあり、赤磐市はどこにも負けない魅力的な市になる可能性を秘めています。赤磐市は、県内有数の桃、マスカット等の産地としての地位は確立しており、桃の最盛期には播磨地域からも購買に来られるほどになっており、道の駅が加わることで一層の来場増が見込めます。一方、果物ほどの季節性が無い文化については、一年中、コンスタンスに多くの来訪を見込めます。この二つが両輪となって一年を通しての赤磐市への来訪増ができ、活性化が図れるのです。子供たちの眼が輝けば、必ず地域が活性化し人口増に繋がります。是非行政の力で、活性化した赤磐市を作ろうではありませんか。ご検討を頂くことを切に願います。</p>	
8	<p>p.4 第4章 本市の文化振興ビジョンの推進に向けて 2 文化施設の整備と活用</p>	<p>前回ビジョンでも「文化施設の整備・充実に努める」としていたが、赤磐市の文化施設は過去7年間で中央公民館の耐震工事をした以外には何ら整備・充実は行われていない。 にもかかわらず、今回の改訂版</p>	【1】と同様

		<p>は前回のビジョンと殆ど同じ記述になっている。それどころか、前回には入っていた「音楽のコンサートや演劇等を行うホールや美術館機能を備えた」という記述が削除されている。赤磐市の文化施設で劣っているのは、正にこの音楽ホールと美術館がないということである。</p> <p>具体的な記述を削除したうえで「整備・充実」という同じ表現をしているということは、今後7年間も今まで通り音楽ホール、美術館の整備はできない、やらないという前回よりも後退しているビジョンとしか読み取れない。</p> <p>もしも、音楽ホールや美術館を整備、建設する計画、ビジョンがあるならば、最低でも建設候補地、建設予定時期、財源等の概要程度は記述しておくべきである。</p> <p>そうでないと前回ビジョン同様、ビジョンを描いただけで実際には何もしない7年間になることが目に見えている。</p>	
9	<p>p.4 第3章 本市の文化振興に関する課題 3 文化芸術活動の環境に関すること</p>	<p>県内外の社会教育関係者と面会する機会がありますが、経験豊かな「社会教育士」や「コミュニティスクールマイスター」が増加しているように拝察いたします。</p> <p>(地域や保護者の実情に精通した学校事務職員、文部科学</p>	<p>本市におきましても、社会教育や地域学校協働活動の充実を図る観点から、社会教育主事をはじめとする職員の専門性向上に努めております。</p> <p>一方で、資格取得者の募集・配置については、職務内容や配置体制、研修機会の確保、財政的</p>

		<p>省職員、公民館長、元教員、校長などが資格を取得されています)</p> <p>したがって、赤磐市におきましても「社会教育主事」のみならず、教育全般に携わる「社会教育士」「CSマイスター」などの資格取得希望者を募り、配置することも必要であると提言いたします。</p>	<p>負担等を総合的に勘案する必要があります。</p> <p>ご提言につきましては、今後の人材育成や体制整備を検討する際の参考とさせていただきます。</p>
10	<p>p.3 第3章 本市の文化振興に関する課題 1 文化活動の主体に関すること 「若い世代の参加や次世代の担い手の育成が課題」</p> <p>p.6 第4章 本市の文化振興ビジョンの推進に向けて 6 推進体制の確立と団体の支援 「連携を強化し協働による取り組み」</p>	<p>事務負担の軽減と、現役世代が参加できる仕組みづくりについて</p> <p>ビジョンにある「若い世代の担い手」の多くは、日中仕事をしている現役世代です。現状の公民館や登録団体の会議・手続きが平日日中・対面に限定されている現状は、これらの世代が運営に関わる上での大きな障壁となっています。行政・市民双方の負担軽減のため、会議の縮小(メール・チャット連絡への移行)や、実施する場合の夜間、休日、オンライン(またはハイブリッド)開催の導入を具体的施策としてご検討頂きたいです。</p> <p>また、施設予約や支払いのオンライン化は、働き盛りの世代が文化活動に参加するために不可欠なインフラであると考えます。</p> <p>これらの負担軽減、DXの施策を、具体的な目標としてビジョンに含め、遂行して頂くこ</p>	<p>ご指摘の内容を反映し、ビジョンの6ページ、8行目に「DXの視点を取り入れた施策を推進します」という文章を挿入しました。</p>

		とが、現役・子育て世代の文化活動への参画には不可欠であると考えます。	
1 1	p.5 第4章 本市の文化振興ビジョンの推進に向けて 4 鑑賞機会の充実	手前みそですが、まさに「赤磐市民吹奏楽団あかいわWIND」の出番だ！と感じております。一流とは言えないかもしれませんが、地域の身近な大人が表現する姿に触れることは、子どもたちの将来像や地域への愛着形成につながると考えています。すでに市民向けのコンサートや小学校の芸術鑑賞会ほか、市民が文化芸術に触れる機会を創ってまいりました。しかし、その度に課題が残ります。まず、施設の予約が基本的に3か月前からだということ。コンサートを企画するには期間が短すぎます。せめて【半年前に予約（会場を確定）できる】と助かります。これは社会教育関係団体など市との信頼がある組織に限ってもいいと思います。また、あかいわWINDに限らず、多くの音楽グループ（プロのオーケストラなど）にとって、市内の施設はどうしても小さく（ステージ、客席、控室、駐車場など）、音響等も不十分です。【近隣の市町村の施設を利用する際も補助金の対象】にしていただけると、団体側もお客様である市民にとってもメリットがあると考えます。	ご提案のような先行予約制度の導入につきましては、円滑な事業実施の観点から、今後、見直しを行う場合の参考とさせていただきます。

<p>1 2</p>	<p>p.5 第4章 本市の文化振興ビジョンの推進に向けて 5 子どもたちの文化芸術鑑賞と体験機会の充実</p>	<p>今回ビジョンが前回と違うのは、5ページの下3行が挿入されただけで、それ以外は全く同文である。 「子どもたちの文化芸術鑑賞と体験機会の充実に努めていきます」としているが、社会教育関係団体等から鑑賞機会を提供されていても、小中学生には全くといっていいほど伝わっていない。その証拠に無料の演奏会にも小中学生はほとんど聴きに來ていない。その原因は、学校の音楽、美術の授業が、単に教科として授業時数を消化しているだけで、文化芸術の観点から音楽、美術を捉えられていないことにある。この実態を教育委員会は認識していない。既に市民団体は文化芸術鑑賞と体験機会の充実に努めているが、ビジョンには教育委員会の取り組みが何も記述されていない。文化芸術活動に児童生徒が参加するには教育委員会は何を行うか記述すべきである。</p>	<p>学校教育においては、学習指導要領に基づき音楽科・美術科等の授業を実施するとともに、芸術鑑賞事業や地域人材を活用した学習活動などを通じて、文化芸術に親しむ機会の充実に努めております。しかしながら、地域で開催される公演や活動情報が児童生徒や保護者に十分に届いていない面があることについては、課題として受け止めております。 今後は、学校と社会教育関係団体との連携をより一層図り、情報提供の在り方や周知方法の工夫してまいります。</p>
<p>1 3</p>	<p>p.5 第4章 本市の文化振興ビジョンの推進に向けて 5 子どもたちの文化芸術鑑賞と体験機会の充実 子どもたちが「触れる」「体験する」機</p>	<p>切望します。 音楽鑑賞や美術鑑賞（子ども向けワークショップ等）のために、倉敷や総社へ出かけることがあります。やはり遠いと疲れます。これが赤磐であればなあと思っていたところです。親子で“休日に”“室内で”体験できる、文化的な機会は</p>	<p>既存施設の活用や関係団体との連携強化を図りながら、親子が参加しやすい休日開催や室内事業の充実に努めてまいります。</p>

	会を継続的に確保します。	親として非常にありがたいです。	
1 4	p.6 第5章 文化財の保護・伝承とその活用 1 文化財の保護と活用	「史跡備前国分寺跡や隣接する史跡両宮山古墳や周辺地域は、国内でも有数の遺跡群で、一体的に整備（歴史公園等）することが必要です」と前回ビジョンと全く同じ記述になっている。 これでは、今まで通りで今後7年間も何も整備は進まない。 「必要」と認識しているなら、他人事のように言わず何をどう整備するかを記述すべきである。	ビジョンは施策の方向性を示すものであり、個別具体の整備内容や事業手法、実施時期等につきましては、財源確保や関係機関との協議などを踏まえ、事業実施段階において整備して進めてまいります。
1 5	p.7 第5章 文化財の保護・伝承とその活用 2 文化遺産の伝承	山陽郷土資料館は、市役所の隣にある必然性は全くない。現在の資料館は展示、収納スペースは既に満杯であり、耐震性もない。小学生の地域学習の場としても学芸員の説明を座って聞くスペースもない。この計画期間中には備前国分寺跡周辺に移設すべきである。 新拠点整備に伴う曾根田遺跡の発掘により多くの遺物が発見されており、今後も新たな発見が予想される。そうなれば、山陽郷土資料館では収納できないおそれがある。 山陽郷土資料館は備前国分寺、両宮山古墳や周辺地域の遺跡に関連する文化財の展示、学習施設とし、出土品の収蔵庫は別途軽部小学校等を活用することも検討すべきで	資料館の移設や機能分担、統合の可能性につきましては、施設の老朽化状況、耐震性、収蔵資料の保存環境、管理体制、財政負担などを総合的に勘案する必要がありますが、いただいたご提案は、今後の施設の在り方や再編整備を検討する上での参考とさせていただきます。

		はないか。その際吉井郷土資料館の民具も移設し、赤磐郷土資料館として統合することも検討の余地はあるのではないか。	
16	<p>p.3 第2章 本市の文化振興に関する現状 2 文化芸術環境の整備</p> <p>p.25 《参考資料》 ◆「文化・芸術に関する意識調査」結果 11 今後活動したい文化・芸術分野</p>	<p>若年層の利用促進を図るため、今後のリノベーションにおいては、コストを抑えつつ利便性を考慮に入れた上で、センスある建築家やコーディネーターを起用し、若者にも馴染みやすいデザイン性を取り入れることを提案いたします。</p> <p>また、活動意向で最も上位に挙げられている映画は、人権教育、文化体験、観光体験、福祉教育、道徳教育、地歴、科学、語学など、あらゆる学びへの導入となり得ます。定期的に中央公民館などで多様なジャンルの映画会を開催し、アニメなども学校教育への導入を図ることにより、多くの子どもたちに教科横断型の学びや、心理療法的な効果、情操教育を提供できるものと考えられます。同時に大人の学び直しの機会としても効果が期待できます。</p>	<p>公共施設のリノベーションにあたっては、機能性・安全性・維持管理コストを十分に考慮しつつ、利用者にとって魅力ある空間となるよう工夫することが重要であると認識しております。デザイン性や居心地の良さといった観点についても、若年層を含め、多様な世代の利用が図られるよう、今後の施設改修や運営改善の検討にあたり参考とさせていただきます。</p> <p>また、映画の活用につきましては、文化芸術鑑賞としての側面にとどまらず、幅広い教育的効果が期待できる分野であると認識しており、公民館における上映等については、今後の検討課題としてとらえています。</p>
17	<p>p.20 《参考資料》 ◆「文化・芸術に関する意識調査」結果 「前は「施設まで</p>	<p>アクセス支援の明記と、アンケート分析について</p> <p>参考資料（20ページ）において「交通手段がない」という選択肢が削除されています。こ</p>	<p>今後の施策検討の参考とさせていただきます。</p>

	<p>の交通手段がない」 （前回 9.4%）とい う 回答項目がありまし たが、【問 2-1、2- 2】等との整合性を 考慮して回答項目を 変更」</p> <p>p.5 第4章 本市の文化 振興ビジョンの推進 に向けて 4 鑑賞機会の充実</p>	<p>の文脈では「鑑賞」に制限さ れていますが、活動におい ても交通手段は非常に重要で す。 文化芸術活動、特に音楽に関 する活動は、複数人数、ある いは私たちの楽団のように数 十名で一カ所に集まって実施 することが前提となっていま す。 団には中学生の団員も複数名 所属しており、また、新規入 団希望者もいますが、保護者 の送迎が不可欠であるなど、 移動手段の有無が活動参画の 非常に大きな障壁となってい ます。 鑑賞という観点においても、 上記の通り数百名規模の集客 で演奏会を実施しようとする と、駐車場の問題に直面しま す。 既存施設の駐車場を拡張す る、あるいは市民バスの本数 を増やすということは様々な 理由により大変困難である と思われませんが、代替となる 交通手段について、演奏会当 日に市民バスの臨時便を出す、 中学生の市民バスの利用料金 を下げる、主催団体がバスに よる輸送を行う場合に利用料 の減免を行うなど、具体的・ 現実的なご検討をお願いし たいです。</p>	
18	p.15	この分析については、市民の	アンケート結果については、肯

	<p>《参考資料》</p> <p>◆「文化・芸術に関する意識調査」結果</p> <p>「前回よりも文化・芸術鑑賞の機会の増加や施設の充実を感じている割合が高くなっている傾向があります。」</p>	<p>芸術に対する意見を正確に反映していないと感じます。</p> <p>アンケートの問2で、「赤磐市は文化活動が盛んなまちである」に「思う」と答えた人が6.7%減少して9%になっており、「思わない」は19%増加して、その差が大きく開いています。</p> <p>この状況において、「思う」の回答者における「身近に文化・芸術鑑賞の機会がたくさんある」「文化施設が整っている」の回答の割合の増加を抽出して明文化することは、アンケート結果を誤認させるおそれがあります。</p> <p>全回答に対して「身近に文化・芸術鑑賞の機会がたくさんある」と答えた人の割合は、</p> <p>前回: 思う=15.7%, 機会がたくさんある=33.2% $\rightarrow 0.157 * 0.332 = 0.052 (\approx 5\%)$</p> <p>今回: 思う=9.0%, 機会がたくさんある=41.7% $\rightarrow 0.09 * 0.417 = 0.0375 (\approx 3.8\%)$</p> <p>と、減少しています。</p> <p>また、全回答に対して「文化施設が整っている」と回答した人の割合は、</p>	<p>定的・否定的双方の傾向を踏まえ、市民の実感を適切に把握し、今後の施策検討に活かしてまいります。</p>
--	---	---	--

		<p>前回: 思う=15.7%, 施設が整っている=21% →$0.157*0.21=0.0329$ (≒3.3%)</p> <p>今回: 思う=9.0%, 施設が整っている=34.4% →$0.09*0.344=0.0309$ (≒3.1%)</p> <p>と、こちらも少しではありますが減少しています。</p> <p>「問1で「思う」と答えた人のうち、文化・芸術鑑賞の機会の増加や施設の充実を感じている割合が前回よりも高くなっている傾向がある」は事実ですが、全体で見ると「機会がたくさんある」「施設が整っている」と答えている人の割合は低下しています。全体で見た場合に割合が低下しているという事実を示すことなく、この一文をこの場所にこのように掲載することは、アンケート結果を誤認させるおそれがあり、適切ではないと考えます。</p>	
19	全般	<p>1 はじめに～我がふるさと「赤磐市」への思い～ 6歳のとき、父が穂崎の生家の隣に建てた新居に移る。 65歳の今日まで穂崎地内に住</p>	<p>貴重なご意見ありがとうございます。</p>

		<p>む。高月幼稚園、高月→山陽小学校（新校舎一期生）、高陽中学校（新校舎二期生）、瀬戸高校、岡山大学と就学。小学校教師となる。新採用は城南小学校（赤磐郡吉井町）で、専門の金管楽器の指導にあたる。その後25年間、岡山市内の小学校に勤務。他職を経て、豊田小（赤磐市）、山陽東小（赤磐市）、行幸小（瀬戸内市）、御休小（岡山市）で講師として勤める。</p> <p>その間、音楽科教育やリコーダー、合唱について著作。アマゾンで確認できる。元岡山県音楽教育学会理事長、岡山県器楽合奏連盟理事長など歴任。（参考までに、美作大学の教員公募に募集した際には、二次選考まで進んだが採用には至らず。）</p> <p>まだまだ、「男がピアノを習う？」「男が音楽をするなんて！」という空気のある子ども時代。そういう偏見よりもつらかったのは、赤磐市の教育が体育重視ではないのかという肌感覚。</p> <p>ここで、あえて感謝したい。私はスポーツ好きに育ちましたと。</p> <p>オリンピックに出場した体操選手たちが高陽中学校の体育館で鉄棒などの演技を見せてくれたこと。走り高跳びの山選手が目の前でハイジャン</p>	
--	--	---	--

		<p>プをしてくれたこと。強烈な印象と憧れを抱いた。おそらく県や町に力のある人がいたのだろうと想像する。(本物にふれることのすごさは、音楽、文化芸術も全く同じ。)また、高月小学校時代の柔軟体操や乾布摩擦(健康優良学校の表彰を受けたころ)、遠方凝視などは、今の健康な私の体を作ってくれたのかもしれない。ちなみに、学生時代からのスキー、教師となってからふれた草サッカー、ソフトボール、軟式野球、バレーボール、バドミントン・と楽しむできた。教員の大会が盛んだった時代であった。学習指導要領・体育科の目標でうたう「生涯にわたって運動に親しむ」をまさに体感、体現させていただいた。赤磐市の教育に対して感謝にたえない。</p> <p>「豊かな人間性を育てる」ことにおいて、音楽よりもスポーツの方が優れている。長年、音楽に、教育に携わってきた者の確信があるが、詳しくは省略。</p> <p>それにしても。田舎(いなか)らしいと言えばよいのか。歴史的背景、JR(交通網)、高等学校や大学の立地など様々な事情も重なっているからか。赤磐市は「音楽、文化芸術のくぼ地です」と自虐的に紹介することさえある現</p>	
--	--	---	--

		<p>実がある。</p> <p>2 「文化芸術の振興」に関する意見</p> <p>第2章 文化芸術の振興－ 2 文化施設の整備と活用－及び、－4 鑑賞機会の充実、－ 5 子どもたちの文化芸術鑑賞と体験機会の充実－かかわって、音楽ホール建設の要望を中心に、以下の項に従って述べる</p> <p>(1) 音楽ホールを持つ文化施設の意義</p> <p>(2) 参考となる他市の文化施設に対する考察</p> <p>(3) 市民吹奏楽の創設、活動を通して</p> <p>(4) 特色ある「道の駅」の視点から</p> <p>(5) 他</p> <p>(1) 音楽ホールを持つ文化施設の意義</p> <p>岡山シンフォニーホールの改修工事に伴い、各種音楽団体は演奏会場さがしに苦勞している。ハレノワ中劇場、建部文化センター、ゆるびの舎、マービーふれあいセンターなどが活用されている。赤磐市に音楽ホール（ステージ上に反響板<音響反射板>が設置されるなど、響きを重視したホール）があれば、候補となったであろうし、広く活用されたかもしれない。赤磐市</p>	
--	--	--	--

	<p>の名を上げる機会になり得たのではないかと残念に思う。</p> <p>「岡山市のベッドタウン」と言われ、それが子ども心に耳に心地よかった「山陽団地」。「ネオポリス」もできた。が、気が付くと「寝に帰るだけ」の街。商業施設、文化施設、高校など、虹色の未来がかすんできた。民度、文化レベルの問題か。「何人が音楽を聴きにホールへ行くのか」「音楽ホールをつくる（維持する）くらいなら、バスをチャーターしてシンフォニーホールに送迎した方が安い」「新見市のホールがカラオケホールと化している」という意見を言う人がいた。</p> <p>音楽ホールの意義、まずは、「市民の鑑賞機会」の充実、「子どもたちの鑑賞機会、体験機会」の充実がある。次に、市民の文化芸術活動の拠点となる。それらに加え、一流の演奏家たちがあこがれる「中国地方有数の響きのよいホール」「伝説の音楽ホール」となりうる。ひいては、赤磐市の名が広くとどろく可能性を秘めている。</p> <p>教会があったからヨーロッパの音楽は発展してきたと聞く。響きのよいホールが先なのである。アコースティックな（マイクなしの）声や楽器を想像してほしい。歌や弦楽</p>	
--	---	--

		<p>合奏、リコーダーなどの音が会場のすみずみまで届くのである。もちろん、PA設備も備え、ジャズ、ポップス、演歌など、まさにノージャンル の音楽に適する。ここまですると、ホールを利用する個人・団体等の演奏レベルの審査などを含めた利用規定が重要となるが、これは気が早いというもの。</p> <p>(2) 参考となる他市の文化施設に対する考察</p> <p>実現の可能性を真剣にさぐるなら、音楽ホールを持つ複合的な文化施設という発想にたどり着く。他市の文化施設について、不十分ならが考察を試みる。</p> <p>① サエスタ</p> <p>岡山県和気郡和気町にある「学び館・サエスタ」大ホール（座席数456）、エントランスホール、町立図書館・資料館、生涯学習センター、トレーニング室、視聴覚室等が入っている複合施設。駐車場広い。大ホールは音響がよい（ヤマハ(株)音響研究所が設計監理した音響を考慮したプロセニアム型) ことで知られる。</p> <p>視聴覚室は備前市の吹奏楽団のメイン練習場となるくらい、広く天井高い。</p>	
--	--	---	--

		<p>赤磐市にはすばらしい図書館がある。また、中央公民館も改修されたばかりである。音楽ホールを持つ公共施設を考えるなら、サエスタの発想を超えるアイデアが必要であろう。</p> <p>② 岡山県立美術館</p> <p>美術館 岡山ゆかりの美術品・工芸品、ミュージアムショップ、カフェ・レストラン、セミナーや鑑賞体験ツアー、ボランティアによるギャラリートーク</p> <p>ホール 座席 212 席（車椅子スペース 7 台分） 講義室 定員 70 名</p> <p>県立美術館のホール及び講義室は、芸術文化関係の催しに貸し出しコンサート（リサイタル・各種発表会・おさらい会等）、古典芸能、郷土芸能、映写会等の鑑賞会、美術その他の芸術及び文化に関する講演会、講座等に</p> <p>このホールは座席数は少ないが落ち着いた雰囲気と響きのよさでよく使われている。タイルのような素材を</p>	
--	--	--	--

		<p>貼った内装で、反響がよい。</p> <p>赤磐市においては、美術館や展示館、郷土資料館などに併設された音楽ホールはいかがだろうか。新しい町づくりにおいて、カルチャーゾーンの目玉になると思うのだが。</p> <p>狭い視野からで恐縮だが、「永瀬清子展示館」（赤磐市松木生まれ、詩人）と「土井原崇浩美術館」（赤磐市立川出身、1960年生まれ（同級生）、高知大学教授）を思う。同級生つながりで、「津島晃」（赤磐市中島出身、1960年生まれ）は東京で「津島晃設計事務所」を構え、活躍している。参考まで。</p> <p>話は散らかるが、博物館的なアイデアとして、「吉井川・砂川生き物館」「シャインマスカット博物館」etc.を思いつく。</p> <p>（3）市民吹奏楽の創設、活動を通して</p> <p>3年前に赤磐市民吹奏楽団「あかいわWIND」が誕生した。これまで、人口の多い赤磐市に一般の吹奏楽団がないことは関係者の間では七不思議であった。瀬戸中学校の吹奏楽部は、指導者にも恵まれ、以前から活発に活動して</p>	
--	--	--	--

		<p>いた。しかし、卒業生は瀬戸高校の吹奏楽部で活動を継続することが少なかった。レベルがそれほどではなかったから。また、赤磐市の中学校（桜が丘中、高陽中など）の吹奏楽部 OB・OG 達は、その後は西大寺や和気、瀬戸内市、備前市、岡山市の一般吹奏楽団に流れていた。地元赤磐市に吹奏楽団がなかったからである。</p> <p>私があかいわWINDに参加し、内側から様子を見てみると、地元の吹奏楽団が待望されていたことを痛感させられた。まさに「待ちに待った」赤磐市の吹奏楽団の誕生である。団員は早くも50名を超えた。</p> <p>「機は熟した」赤磐市の吹奏楽文化、音楽文化はしっかりと地力をつけてきていたのである。これまで、赤磐市内の中学校で吹奏楽部の指導に当たってくださった諸先生方、私たちはこんなに育っています。ありがとうございました。</p> <p>吹奏楽人口が多いはずの赤磐市に一般の吹奏楽団がなかった理由を書き上げてみたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校の吹奏楽部のレベル、指導者のめぐり合わせ ・ 吹奏楽に力を入れる高校 	
--	--	---	--

		<p>の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・練習場、楽器置き場の存在 ・地域の文化芸術の土壌 <p>全国に名をはせる中学（ex. 高松中学校、総社東中学校、津山西中学校）や高校（ex. 岡山東商、城東、学芸館、明誠、就実）を取り巻く環境、歴史や背景、卒業生のその後の活動などにふれることは、ここでは省略する。</p> <p>あかいわWINDは「初の託児付き吹奏楽団」「コンクールより楽しさを」「blankを気にせず」など、特色のある吹奏楽団である。ここで、赤磐市の社会教育関係、福祉関係その他の皆様から、強力なご理解やご支援をいただいていることに感謝の意を表したい。</p> <p>あらためて、今後のあかいわWINDの持続性や発展性を考える上で、音楽ホール（ホール+練習室+楽器置き場）が必要不可欠であり、重要かつ緊急の課題であることをご理解いただければ幸いです。</p> <p>（４）特色ある「道の駅」の視点から</p> <p>大型商業施設は未確定でも、道の駅はできると認識している。道の駅は「特色ある道の駅」でなければ、全国レ</p>	
--	--	--	--

		<p>ベルの道の駅にはなり得ない。「同じやるなら、良い道の駅を作ってください。」これは新しい町づくりのヒアリングの際の、一市民（女性）の悲痛なさげびだったと記憶する。同感である。道の駅ではないが、津山駅前のバスターミナルが閑散としてむごいことになっていると聞いた。閑古鳥が鳴く道の駅は見たくない。</p> <p>どう特色を出すか、市の方でも既に議論は高まっていると信じたい。総合プロデューサーを雇う気構えはあるのか、その予算は？ これも気がかりな点の一つである。市民のアイデアを広く募集したり、進捗状況を適宜公開したりするなど、オープンな議論を望む。</p> <p>全国的には、家族連れが訪れてにぎわう道の駅が、利用者数上位にランクされているらしい。子どもからお年寄りまでというが、いわゆる大人や高齢者がゆったりと過ごせる施設が必須ではないか。①「野外ステージのある道の駅」と②「美術館（ホール併設）のある道の駅」③「映画館のある道の駅」を考えることにする。</p> <p>① 野外ステージのある道の駅 野外ステージは種々のイベ</p>	
--	--	--	--

		<p>ントに利用できるが、文化芸術、とりわけ音楽的な催し（ダンスを含む）に適している。毎週日曜日には、午前1つ午後1つイベントが組み込まれ、「あそこに行けば、何かおもしろいことをやっている」道の駅にしたい。手前みそになるが、母の出身地、徳島県三好市の「へそっこ公園」と「へそっこ公園ステージ」をぜひ参照していただきたい。雨天でもステージには雨がかからない。</p> <p>野外ステージは、公民館グループや一般の団体の発表の場として活用できる。倉庫や会議室等を備えることができれば、用途はさらに広がる。あかいわWINDと強引に結び付ければ、練習場と楽器置き場にさせていただけるだろうし、月1回（毎月第〇日曜の午後とか）のパフォーマンスを担当できるかもしれない。</p> <p>道の駅を利用する不特定多数の方に披露するということは、一定の質（レベル、品位）が求められる。野外ステージを担当する部署が教育委員会社会教育課に設置されるだろう。また、芸術・音楽監督的なポジションの人には、力量や専門性などが問われることになるだろう。</p> <p>② 美術館（ホール併設）のあ</p>	
--	--	---	--

		<p>る道の駅</p> <p>道の駅では、「赤磐の新鮮な野菜が安く買える」とか「白桃のソフトクリームがおいしい」とか「備前焼体験ができる」とか「足湯が気持ちいい」とか「川遊びができる」とか「テニスやフットサルができる」とか、はたまた「グランピング」とか、楽しいことが次々と想像される。半面、買い物に疲れたり、することがなくて退屈したりする大人、高齢者の方々にもやさしい道の駅でありたい。ちょっと腰を下ろしたいのである。</p> <p>美術館、郷土資料館などはどうだろうか。加えて、コンサート（演奏会）はどうだろうか。それらを目的に道の駅に行くのもありではないか。駐車場探しに困らないというのも、人が集まる条件になる車社会であるから。</p> <p>音楽ホールが敷地内にある、あるいは併設されている道の駅はアピールするのではないかと思う。運営に工夫や苦心はあるとしても。またまた、あかいわWINDに結び付けることが許されるならば、練習場に、楽器置き場に、そして定期演奏会や種々のコンサートの会場に利用させていただくことができ、この上ない幸せである。</p>	
--	--	---	--

		<p>③ 映画館のある道の駅</p> <p>ドライブインシアターが再び注目を集めている。広大な敷地、巨大なスクリーン・田舎の強みが生かせる可能性がある。岡山県ではおもちゃ王国のファミリードライブインシアターがあるのみ（ネット情報では）。続けてこの項について述べることは、映画好きのどなたかに譲りたい。</p> <p>(5) 他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とにかく赤磐市に音楽ホールを。「文化芸術のくぼ地」の汚名を返上したい。 ・音楽ホールは赤磐市の単独直轄の「赤磐市民ホール」でなくてもよい。赤磐市出身のアーティストを冠にして「福田廉之介ホール」 文化遺産の保護・伝承の視点から「備前四つ拍子ホール」 民間との連携で「ナカシマホール」（ナカシマ博物館と併設とか）「Costco（コストコ）ホール」 <p>※あろうことか、あの赤磐市に音楽ホールがない。多くの市民がそれを切望している・・となれば、優良企業と思惑が一致する可能性はある。</p> <p>※「サントリーホール（東</p>	
--	--	---	--

		<p>京都港区)」「Junko Fukutake ホール (岡山市北区鹿田町)」などについて、ご存じとは拝察するが、今一度探してほしい。なお、故福武純子氏は福武總一郎氏の妹。福武教育文化振興財団は種々の支援事業を行っている。</p> <p>3 はばたけ赤磐市～発想の翼を広げて～</p> <p>実現性よりも未来志向、それが荒唐無稽の夢物語であったとしても。</p> <p>何を夢見るかは自由。人の数だけ自由は広がる。柔軟な発想、多様なアイデアを広く求めてほしい。この意見募集は実にすばらしい。</p> <p>情報発信…意見募集のみならず、市の情報発信力の一層の向上を期待する。市が取り組む課題の現在地、実は誰でも参加できたイベントのお知らせ etc. 私を含め、受け取る側の問題もあるわけだが、メディア (RSK,TSC などの広報番組の赤磐市版) の利用や屋外用大型デジタルサイネージの設置など、だれにでも受け取りやすいツールが望まれる。</p> <p>最後に、交通インフラの視点から、意見を述べたい。</p> <p>赤磐市立豊田小学校に勤務した時、学区の土地利用や J R 熊山駅 (市内唯一の J R の</p>	
--	--	---	--

		<p>駅、利用者数は県内上位) について調べる機会があった。そして、JR熊山駅と岡山市内の牧山駅を結ぶJRの新線あるいはトラム（路面電車）、モノレール（懸垂式・跨座式）を発想した。特に懸垂式モノレールは、地上の交通などを妨げることが少ない。</p> <p>路線としては、熊山駅→桜が丘（中央の複合商業施設跡地）→ドイツの森→竜天天文台公園→サッポロワイン岡山ワイナリー→バスターミナル（河本？岩田？）→山陽団地（山陽ショッピング跡地）→牧山駅（一例）</p> <p>電車（トラム・モノレール）は、移動手段のみならず、それに乗ることを目的にした利用もめざす。懸垂式モノレールなら‘空中散歩’。また、乗り物内でのイベントを企画（お花見電車、納涼フルーツ&スイーツ電車、新酒飲み比べ、ライブ電車、走る美術館、クリスマスイベント、貸し切りパーティーetc.）。赤磐市内でも消費行動を促す。道の駅でのショッピング etc.</p> <p>赤磐市内の文化芸術施設とは、もちろんタイアップする。赤磐市の文化振興は、市民のためであると同時に、周辺地域、他地域の人々の動きを呼び込むものである。</p> <p>はばたけ赤磐市。多角的視</p>	
--	--	--	--

		点から、未来志向のビジョンをもちたい、そう願っている。	
--	--	-----------------------------	--